

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	河内長野市地域福祉推進協議会
2 開催日時	令和4年10月18日(火) 14:00~16:00
3 開催場所	河内長野市役所3階 301会議室
4 会議の概要	<ol style="list-style-type: none">1. 会長・副会長の選出について2. 第4次地域福祉計画・第3次地域福祉活動計画 令和3年度の実施状況及び評価について3. 令和4年度の実施方針について4. その他
5 公開・非公開の別	公開 (途中入場は不可)
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	福祉部 地域福祉高齢課 (内線 364)
8 その他	

令和4年度 河内長野市地域福祉推進協議会 会議録(要旨)

■日時・出席者等

日 時：令和4年10月18日(火)14:00～16:00

場 所：河内長野市役所3階 301会議室

出席者：委員 久 隆浩（近畿大学教授）
本田 和隆（大阪千代田短期大学教授）
溝端 秀幸（河内長野市社会福祉協議会会長）
玉崎 和実（河内長野市地区（校区）福祉委員会委員長連絡会）
御前 敏一（河内長野市身体障害者福社会会長）
森川 栄司（河内長野市医師会副会長）
西端 恵子（河内長野市人権協会副会長）
山本 淑子（河内長野市地域女性団体協議会会長）
水谷 邦子（河内長野・大阪狭山地区保護司会河内長野支部副支部長）
大西 豊美（河内長野市社会福祉施設連絡会）
事務局 中橋 栄一（河内長野市福祉部長）
緒方 博（河内長野市福祉部地域福祉高齢課長）
浦田 尚代（河内長野市福祉部地域福祉高齢課長補佐兼地域福祉係長）
内倉 正隆（河内長野市福祉部地域福祉高齢課地域福祉係主査）
土橋 崇之（河内長野市社会福祉協議会相談支援課長）
松下 剛士（河内長野市社会福祉協議会地域福祉課長）

■会議録(要旨)

開 会（司会：地域福祉高齢課長）

- ・出席数確認（10名）→ 過半数以上で会議成立
- ・中橋福祉部長あいさつ
- ・委員紹介

案 件

1. 会長・副会長の選出について

（会長・副会長未選出のため、案件1の会長、副会長の選出までは司会が進行し、それ以降は久会長が進行。）

・会長、副会長の選出について互選である旨説明。立候補・推薦がなく、事務局一任の声があったため、会長に久氏を、副会長に船本氏、本田氏をと提案し、全会一致で承認された。

2. 第4次地域福祉計画・第3次地域福祉活動計画
令和3年度の取り組み状況及び評価について

<資料1参照>

会長	事務局より説明を。
事務局	資料1に基づき説明。
会長	それでは、評価についてご意見をいただきたい。
委員	資料の中でいくつか確認したことがある。 ① CSWの配置とあるが、これまでの配置にプラスしてということか、これまでと同じ配置を言っているのか。 ② NPOの認可は何団体ぐらいになるのか。 ③ 民生委員への相談後はどのような流れになるのか。 ④ 障がいの就労支援の事業所はどれぐらいあるのか。
事務局	CSWの配置については従来からの配置と同じである。 民生委員への相談後については、個人で対応できるものは対応いただいている。 専門的な話はCSWにつないでいることが多い。 NPO法人の認可と就労支援事業所の数については、資料をもちあわせてなく不明である。
会長	就労支援事業所について、数字はわからないが充足はしているという理解で良いか。
事務局	そのように考えている。
委員	指標の目標数値が最終目標しかなく、どの段階でどの程度進んでいけばいいのかということがわかりにくい。段階的に評価できるようになっていればと思う。 また、もう少し早い時期に前年度評価すべきではないか。
事務局	前年度からの課題や方向性が確認できるように、今回の評価資料は前年度評価と比較できるようなレイアウトにしている。また、より効果的な指標がないか研究していく。 また、時期については決算後から評価資料の作成、庁内組織における確認などの作業もあるため年度当初というのは難しいが、もう少し早められるよう検討する。
会長	次回に向けて、評価や時期の工夫をよろしく。 また、改善や新規事業への準備は進めているが、形になっていないものについて、低い評価となっているが、次の年に花が開くようなものであれば良い評価としても良いのではと思う。
委員	民生委員の目標値が93.0%となっているが、95.0%の間違いではないか。 また、市民後見人バンク登録者数は減っているのか？ P10の安全・安心な暮らしを守る環境づくり中、「災害時救急時」は「災害時緊急時」の間違いではないか。 ※自主防災の組織化率についてもご指摘をいただきましたが、確認したところ、資料の記載で間違いなかったため公表する会議録には記載しません。
事務局	数字や文言について確認し、訂正する。 市民後見人は、体調や年齢、家庭の事情により登録をやめる人がいたため減って

	いるが、新たに登録する人も毎年いるため、減る一方ということではない。
会長	ほかに評価について意見等はないか。ないようであれば、事務局で修正箇所の確認を。

3. 令和4年度の主な取り組みについて

<資料2>・<資料3>参照

会長	事務局より説明を。
事務局	資料2、資料3に基づき説明
会長	それでは、令和4年度の取組についてご意見をいただきたい。
委員	資料2の高齢者向けスマホ教室と資料1の高齢者向けスマホ教室等の「等」は何か。 また、「庁内連携」という言葉は、市役所外部の人にはわかりにくいので、外部に出す資料には工夫をした方が良い。
事務局	高齢者向けスマホ教室「等」は、民間との連携協定で様々なこと実施することを想定してつけたもの。令和4年度は、高齢者向けスマホ教室を実施予定。 資料の標記については今後改善する。
委員	地域で民生委員が活躍していて、重要な役割を担っているが、負担が増えているのではと思う。民生委員だけでは難しい部分を社会福祉施設が担っていければと考えている。施設にはCSWもいるので相談支援もできる。
会長	千葉県の柏市では、地域福祉の連携が進んでいる。専門職が集まるワークショップを開催して顔の見える関係づくりを進めている。福祉職だけでなく、看護師や医師、薬剤師などが参加し、特別なテーマを設けず関係づくりをする中で、つなぎ役になれる人やコーディネーターが得意な人などが見えてくる。参考にしているかどうか。
委員	民生委員は確かに大変であるが、協力員制度導入に向けての検討も進んできていて、体制的に強化されていると感じている。
委員	地域福祉について、民生委員や福祉委員だけでは前に進みにくい。広い協力体制が必要。地域のスキルを活用することが重層的支援体制への近道となる。
委員	枠組み作りが目的とならないよう、もっと困りごとや地域の声を拾い上げる仕組みが必要だと思う。
会長	先ほど紹介した千葉県の柏市では、「つながり図鑑」と言って、いろんな分野を一括でPRしている仕組みがある。高齢者向け、子ども向け、だれでも利用できる場所など分野を問わずそこで検索できるようになっている。
委員	福祉の担い手づくりとして、子ども向けのすごろくは継続しているのか。
事務局	学校への配布は昨年だけであったが、福祉学習のプログラムの一つになっている。車いす体験など具体的なプログラムの前に実施することで、子どもたちの反応や習熟度が変わるので、学校側も積極的に取り入れてほしいと考えている。
会長	明石市のコミュニティ創造協会では、まちづくり協議会の立ち上げや運営支援などを実施している。福祉の地域づくりは、個人のケースから地域の課題へとつなげることが多い。コミュニティづくりとは入っていく方向性が違う。福祉とコミュニティのいいところがうまく連携できれば良い。

	民生委員や福祉委員に向けたタブレットの配布は、活用に向けてのフォローはするののか。
事務局	まだ配布できていないが、配布後は活用支援の講座なども予定している。
会長	ぜひ情報発信の支援をしてほしい。 それぞれが情報発信をすることで新たなつながりなども生まれやすくなる。

3. その他（意見交換等）

会長	せっかくだくさんの団体からお集まりいただいているので、情報発信・共有などあればこの場でどうぞ。
委員	11月26日に人権を考える市民の集いがラブリーホールであるので、みなさんご参加を。
委員	11月3日に映画「咲む」（えむ）の上映会をキックスで実施する。ぜひ参加を。

- ・事務局から事務連絡（会議録の公表のお知らせと文面校正のお願い等。）

閉 会

(終)